

作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名：大石影子

発表者：海野秀美（特非おひさま 太陽の家）

（所属）社福 復泉会

山本恵理子（医 好生会 はまかぜ）

【支援・活動事例の概要】

目標・目的	自分たちの取り組みを深く掘り下げ、はたらくことの支援を改めて考える場とする また、発表者の話を聴き、意見交換をすることでの気づきを得て、それぞれの事業所の取り組みについて再確認をし、自分で語れるようになることを目指す
計画・手段	2名の発表者から事業所で取り組んでいる作業や活動について、そこに至るまでの経緯・歴史、コンセプトなどについて語っていただき、意見交換を踏まえ、何かを始める時の思いや支援を通した楽しさ・やりがいなどにも着目し、全体討議で掘り下げていく。
内容・経過	発表① 海野秀美 地域からの温室使用提供の話があり、野菜の栽培から始め、菌床椎茸の栽培に挑戦する。収入の安定を目指した販路開拓や作業における環境の整備。利用者さんへ作業提供を通した支援と利用者さん自身の行動変化など、この作業に関わることがやりがいにつながっている。また、自分たちの役割・使命を再確認し、自由な発想と展開につながる 発表② 山本恵理子「餃子からナマズへ」～なぜ、ナマズをやるのか～ 浜松餃子を主な作業として取り組んできた中、新たにナマズの陸上養殖に取り組むことになった今、そもそも餃子をやり始めた目的を振り返り、現状の課題分析や解決策の検討を経てナマズの養殖作業に挑戦。これをチャンスと捉え、取り組む事が現在の取り組みにつながっている。また、授産製品を作ることは就労支援の目的ではなく手段である事を職員間で共有し、もう一度考えみんなが同じ方向を向くことの大切さに気付く。
結果・課題	発表者2名とも自事業所で取り組んできた作業の目的や経緯を振り返ることで、新たな作業への挑戦が現状の課題解決のきっかけとなったことや、新たな作業を通した就労支援が、それぞれの利用者さんにとっての楽しみや、やりがいにつながっていることが報告された。また、現状の取り組みに課題はあるものの、今後の明確な展望がそれぞれにあり、職員間での共有された目的や目標などに向けた取り組みが、さらなるやりがいや自信につながっていると考えられる実践報告だった。

【意見交換】

2名の発表の後、参加者からの意見を伺った。内容としては、より具体的な取組状況について、市場や販路・価値に見合った宣伝、事業を始める上での初期投資や助成金の活用など、就労支援として幅広い意見交換ができた。また、物価高騰や働き方での大変さがある中、利用者さんが毎日楽しそうに仕事をしている姿が宝物であるという発表者の思いも聞くこともでき、働くことの大切さを改めて考える場にもなった

【まとめ】

それぞれの事業所での取り組みや挑戦の実践報告を聴くことで、新しい事への挑戦や固定観念にとらわれない発想の展開を考えさせられる場となった。そこから自身の事業所の取り組みや目的を振り返る場とすることが、部会としては大事なことでありと考えている。それぞれの取り組みを通して、就労支援とは何か。働くということは賃金を得るという事だけではなく、賃金とは違う別の価値をどう提供していくのかを考え、それぞれの答えを明確にしていくことが大事であるとする。そしてどんな取り組みにもヒストリーとストーリーがあり、自分自身が納得いくような掘り下げをそれぞれの事業所で行い、探ってほしい。